



大浦の墓追田

(がまおいだ)



一九世紀に書かれたとみられている加世田郷の地誌『再撰帳』には、加世田郷内の「七奇」（七奇所）の一つとして、日新公（島津忠良／梅岳常潤在家菩薩）にまつわる、大浦の「墓追田」（がまおいだ）について次のような旨の説話が記されています。

その昔、日新公が大浦の磯間山の鹿倉で狩りをした際、平原門の百姓の家に来られた時のこと。折しも、天候のすつきりしない春の夜で、田の墓（がま／ヒキガエル）が鳴くため、その騒がしさに日新公はとても耐え忍ぶことができず、人を使って門田の墓を追い出させた。驚くことに、その墓は、聖君（日新公）のいましめをきつと畏怖したのであるう、それから今の時代に至るまで、その田で墓

が鳴くことは無い。これを地名にして「墓追田」と言う。また、永田の「前かくち」という地名の田でも墓が鳴かず、これも墓を追い出させた場所であるとも言う。または「御霊牌」（永田に祀られている日新公の御牌）が建っている目の前であるから鳴かなかつたのであろうか。奇異とするに十分な出来事である。

『再撰帳』には、このような説話と共に「墓追田」の絵も掲載されています。別の地誌（『再撰史』）では、日新公が永田門（一説に平原門）に宿泊した際の出来事とされ、「墓追田」の場所については、平原と永田の二つの説があるようです。

日新公と墓の鳴き声が騒がしい夜にちなんで、何とも不思議なお話です。



日新祠堂

南さつま市大浦町永田の吉見家にある日新祠堂。日新公（島津忠良）の御牌が祀られている。



墓追田

【『再撰帳 一の二』（加世田郷土資料館蔵）より】

『再撰帳』に掲載された墓追田の絵。田に多くの墓（ヒキガエル）が描かれているが、画面左側の「墓追田」と記される田にだけ墓が描かれていない。

【引用・主要参考文献等】

- ◆土持鋤夫 1927a 『加世田遊覧案内』浪速堂書店
- ◆土持鋤夫 1927b 『神代より藩政時代に至る 加世田の歴史』京都活版所
- ◆橋口 亘 2017 「鹿児島県南さつま市加世田郷土資料館蔵『再撰帳』掲載絵図に描かれた近世薩摩国川邊郡加世田郷」『南日本文化財研究』No.27 『南日本文化財研究』刊行会
《史料》：『再撰帳 一の一』／『再撰帳 一の二』／『再撰史 二』
(文／生涯学習課 橋口 亘)